

いつも一緒 富山のペットたち

ことしも、動物たちにとって人間以上に過酷な暑い夏がやってきました。今回は、この季節に遭遇しやすい寄生虫とフィラリアの予防についてお話しします。



高島獣医科富山東病院長
(富山市水橋小出)

今野 浩明

寄生虫とフィラリア

趣味
し
ジャ

この寄生虫は、下痢や嘔吐を引き起こすことがあります。市販の虫下しでは駆除できず、捕食癖のあるペットは何度も感染することがありますので、この時期は定期的に検便をしましょう。屋外だけでなく、家の中に入ってきたカエルを食べた場合、飼主の方も注意してください。



寄生虫の一種「東洋眼虫」。シヨウジョウバエが感染を媒介する。

もっとも体長の長い寄生虫です。「メトマイ」が媒介します。メトマイが犬、猫の涙や目やにを食べることで感染します。猫はグルミング(毛づくろい)をすることで、特に感染しやすいと言われています。体調に変化が言われていまず、目が見えなくなると、目がしばしばする。

フィラリアは感染して半年以上すると、肺動脈から心臓付近に到達し、親虫となつてすみ着いてしまいます。その頃には、長さ20センチほどの大きな虫になり、治療は困難です。

カエル捕食や蚊に注意

同じサナタムシの一種に「瓜実条虫」がいます。便やお尻が、伸び縮みしながら動いている長さが、ほの虫がいたら要注意です。しばくすると乾燥して茶色の米粒のようになり、これは片節と呼ばれる寄生虫に「東洋眼虫」が寄生する一部にすぎず、実際は

赤くなるといった結膜炎の症状が出ます。治療は、局所麻酔をして虫を取り出すことになり、続いてフィラリア症について説明しましょう。この病気の、寄生虫の一種、フィラリアに感染した蚊に刺されることで起

毎月1回予防薬
近年は予防の意識が高まり、予防薬を毎月あげているご家庭も増えていくようです。でも、予防の仕組みを理解してしっかりと予防しましょうか。フィラリアの予防薬は毎月1回飲ませますが、飲んでから1カ月間、効果が持続するわけではありませ

前に寄生した、目に見えない小さな子虫を退治するのです。フィラリアの子虫はある程度成長してしまつと、予防薬で駆除できなくなり、感染力を持った蚊が、飲んでから1カ月間、効果が持続するわけではありませ

2012(平成24)年 7月5日
北日本新聞